

## G1有馬記念

### <最終見解>

過去 10 年の有馬記念で最も速い上りタイムで勝ったのはディープ産駒のジェンティルドンナ。  
今年はその時よりも路盤は軽いです。

土曜の同コースでも勝ち馬は上り 33 秒台。  
開幕週の同コース勝ち馬も 33 秒台。  
冬の中山芝 2500m で 33 秒台を連発できる馬場は前代未聞。

雨が降らなかったこともありますが、  
芝の調整も調整方法も変えたのでしょうか(リサーチ済みです)  
今まで以上に直線スピードを発揮できる馬場。

本命はジャスティンパレス。

父はディープインパクト。直線スピード競馬の最高峰種牡馬。  
母父、母母父は 30 年近く前から有馬記念に強い系統。  
直線スピードは要求されるとはいえ、非根幹距離で起伏のあるコース。

母方からはある程度の馬力と非根幹適性を補われた馬の方がベター。

母父はヌレイエフ系のロイヤルアンセム。

マンハッタンカフェが勝ち大波乱になった 2001 年の有馬記念はヌレイエフを持つ人気薄が 2、3 着。

2020 年の有馬記念を勝ち、21 年も 3 着のクロノジェネシスは父がバゴ。  
その母父はヌレイエフ。

ナリタブライアンが勝った 94 年の有馬記念の 2 着ヒシアマゾン  
父がヌレイエフ系のシアトリカル。母母父はロベルト系のレッドランサム。

1994 年の有馬記念を勝ったナリタブライアン、  
95 年の有馬記念を勝ったマヤノトップガン、  
98 年の勝ち馬シルクジャスティスの父はブライアンズタイム。

98 年、99 年の有馬記念を連覇したグラスワンダーは父がシルヴァーホーク。  
いずれもロベルト系種牡馬の産駒。

昨年は持ち味を出せない上に馬場の不利を受けた乗り方。  
前走のようなリズムで乗れば有馬記念にマッチするでしょう。天皇賞秋からの直行も有利。

相手本線はドウデュース。

今月の中山芝はハーツクライが首位種牡馬。  
先に書いたように直線スピードが削がれない馬場。  
非根幹距離でも直線スピードを発揮できる馬場であれば強いことは、  
春の京都記念で証明済み。  
秋2戦は力を出せていないのも、今となっては、余力を残す形となりました。

スターズオンアースも主流スピードに優れた名牝。  
今の馬場なら外枠はそれほど不利にならないでしょう。

タスティエーラも非根幹距離で直線スピード発揮できる舞台が最適条件。

スルーセブンシーズも適性高く、さらなる上昇も見込める条件。

と、人気順に評価しているだけになってしまったのですが、  
強いて一発狙いならシャフリヤール。こちらもディーピンパクト産駒。  
主流血統が走りやすい今年の馬場なら。